

村のお財布事情

—平成29年度の決算報告—

皆さんの納めた税金等がどのように使われたのかをご報告します。なお、詳しい資料は企画経営課(役場行政棟3階)で閲覧できるほか、村公式ホームページでもご覧いただけます。

■問い合わせ 企画経営課財政経営担当(☎282-1711 内線1334)

●一般会計

福祉や教育、道路の整備等、村政運営の基本となる会計です。

歳入	歳出	差し引き
192億円	185億円	7億円

平成29年度は
7億円の黒字決算!



●特別会計

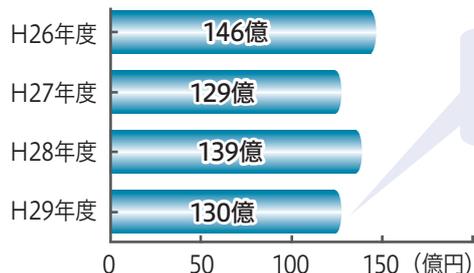
公共料金や利用料など特定の収入を、国民健康保険や介護サービス、下水道といった特定の事業に充てる会計のことです。

事業名	歳入	歳出	差し引き
国民健康保険事業	37億2,711万円	35億7,860万円	1億4,851万円
後期高齢者医療	4億1,330万円	4億827万円	503万円
介護保険事業	28億5,059万円	25億2,886万円	3億2,173万円
介護サービス事業	549万円	508万円	41万円
東海駅西土地区画整理事業	2億260万円	1億1,396万円	8,864万円
東海駅東土地区画整理事業	9,636万円	5,999万円	3,637万円
東海駅西第二土地区画整理事業	1億6,576万円	1億3,758万円	2,818万円
東海中央土地区画整理事業	10億7,800万円	9億3,702万円	1億4,098万円
公共下水道事業	19億1,618万円	17億4,315万円	1億7,303万円

●基金

将来の支出等に備えて積み立てておくお金です。

区分	現在高	増減率 (前年度比)
①財政調整基金	70億2,490万円	△0.5%
②減債基金	22億4,851万円	△18.2%
③特定目的基金	29億4,573万円	△10.9%
④定額運用基金	7億8,304万円	0.0%
合計	130億218万円	△6.5%



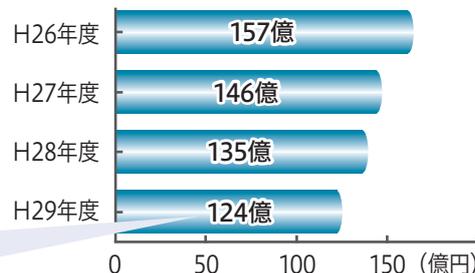
駅西口広場再整備などの建設事業に特定目的基金を計画的に充てています。

村債の償還には減債基金を計画的に充てています。

●村債

国や金融機関から借り入れる資金です。

区分	残高	増減率 (前年度比)
①一般会計	28億5,969万円	△18.0%
②公共下水道事業	62億6,950万円	△5.3%
③水道事業	18億9,450万円	△3.9%
④病院事業	13億3,705万円	△4.6%
合計	123億6,074万円	△8.3%





■一般会計決算をグラフで見ると

歳入 192億円

(前年度比-25億円減)

歳出 185億円

(前年度比-26億円減)

歳入から歳出を引いた額…7億円※

構成比 59.9%
村税 115億円
村民税や固定資産税、都市計画税など

民生費 51億円

福祉や医療などに使われたお金

主な事業

- ▽病児・病後児保育施設整備事業
- ▽自立支援給付費

構成比 27.6%

土木費 42億円

道路や公園の整備等に使われたお金

主な事業

- ▽阿漕ヶ浦公園改修工事
- ▽東海駅西口広場再整備工事

22.7%

教育費 24億円

幼稚園や小中学校、社会教育等に使われたお金

主な事業

- ▽村立東海南中学校改修工事
- ▽スイミングプラザスライダー改修工事

13.0%

14.6%
国庫支出金 28億円
村の特定の事業に対して国から交付されたお金

総務費 23億円

コミュニティセンターの運営や防災対策など、村の運営全般に使われたお金

12.4%

8.8%
繰入金 17億円
基金や特別会計からの受入金

衛生費 20億円

保健衛生や環境衛生、ごみ処理などに使われたお金

10.8%

4.7%
県支出金 9億円
村の特定の事業に対して県から交付されたお金

公債費 7億円

村債の元金や利子の償還等に使われたお金

3.8%

12.0%
その他 23億円
使用料や手数料、交付金、繰越金など

その他 18億円

議会・消防・商工・農林水産業に使われたお金

9.7%

※歳入から歳出を引いた7億円のうち1億円を平成30年度に実施する事業へ繰り越すため、実質的な差額(実質収支額)は6億円となります。その2分の1の金額を基金として積み立て、今後の支出に備えます。

■ 村民1人あたりに使われたお金は？



合計 約48万3,000円 ※平成30年3月31日現在の住民基本台帳に基づく人口(3万8,237人)から算出しています。

財政の健全性を示す5つの指標

東海村は赤字や資金不足がないため、実質公債費比率を除く全ての項目で、数値が算出されませんでした。また、実質公債費比率についても危険度を示す25%を大幅に下回っており、村の財政は健全といえます。

東海村の財政の健全性

① 実質赤字比率

一般会計を中心とした赤字の割合	H27	H28	H29	対前年度比
	なし	なし	なし	—

② 連結実質赤字比率

全ての会計（一般会計、特別会計、公営企業会計）の赤字の割合	H27	H28	H29	対前年度比
	なし	なし	なし	—

③ 実質公債費比率

年間の借金返済額の割合	H27	H28	H29	対前年度比
	3.4	4.0	4.4	0.4

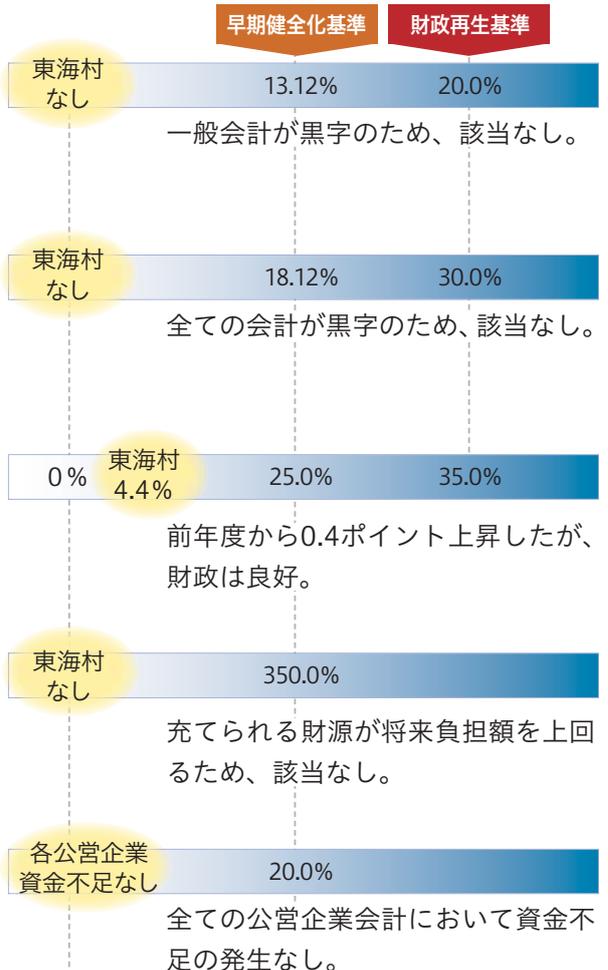
④ 将来負担比率

将来負担が見込まれる負債の割合	H27	H28	H29	対前年度比
	なし	なし	なし	—

⑤ 資金不足比率

公営企業ごとの資金の不足額の大きさを示す割合				
H27	H28	H29	対前年度比	
資金不足なし	資金不足なし	資金不足なし	—	

財政良好 ← 財政悪化



■ “東海村さん家” の家計簿

～もしも東海村が、年収約600万円の家庭だったら～

村の財政規模は、金額が大きすぎて実感が湧かないかもしれません。そこで、一般会計決算を約3000分の1の額とし、家計簿(年度分)に置き換えてみました。約600万円の年収に換算した場合の東海村のやりくりがどのようなものか見てみましょう。

収入

他に頼らないお金
(自主財源)75%

給与 (村税、分担金・負担金、使用料・手数料)	396万円
預貯金からの引き出し (繰入金)	58万円
前年度からの繰り越し (繰越金)	19万円
雑収入 (諸収入、財産収入)	9万円
親からの仕送り (地方譲与税、地方交付税、国・県支出金等)	158万円
ローン借入れ (村債)	0円
合 計	640万円

～東海村さん家の収入の特徴～



給与(村税など)や預貯金からの引き出し(繰入金)など、他に頼らないお金のことを「自主財源」と言います。収入の中でも給

与は全体の62%を占めており、預貯金から引き出したお金などと合わせると、全体の75%を占めます。また、ローンの借入れ(村債)はありません。

支出

必ず支払うお金
(義務的経費)36%

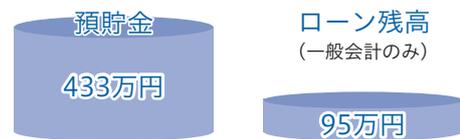
食費 (人件費)	107万円
医療費、学費 (扶助費)	89万円
ローン返済 (公債費)	23万円
光熱水費・日用品の購入費 (物件費)	105万円
自宅の増改築・修繕 (維持修繕費、普通建設事業費、災害復旧事業費)	91万円
子どもへの仕送り (繰出金)	95万円
会費、保険、友人への支援 (補助費等)	78万円
貯金 (積立金、投資・出資金、貸付金)	26万円
合 計	614万円

～東海村さん家の支出の特徴～

食費(人件費)や医療費・学費(扶助費)など、必ず支払うお金のことを「義務的経費」と言い、支出の中でも36%を占めています。

やりくり(財政運営)のポイント

自主財源のみでは必要経費を全て賄うことはできないため、親からの援助(地方譲与税など)を得ながら、やりくりを行っています。現在、預貯金が433万円、ローン残高(一般会計に係るもの)が95万円です(右図参照)。



※平成29年度末の「預貯金」と「ローン」の残高

着実な財政運営を目指して

村の平成29年度決算を見ると、健全な財政状況と言えますが、今後の税収減を見据え、継続的に安定した行政サービスを行えるよう中長期的な見通しを立てて、事業を行っていきます。次年度以降も引き続き、限られた財源を有効に活用し、適正で効率的な予算執行に努めます。

